

令和元年度 島根県立農林大学校 学校評価

●教育の目的
「次代の島根県の農林業をリードする農業者及び林業技術者の養成」

●基本方針
 ・高度な農林業技術と専門的知識を習得し、経営管理能力を養う。
 ・広い視野に立って農林業を考え、技術革新、経営改善に積極的に取り組み、新しい農林業を創造する能力を養う。
 ・先見性を持って流動的な社会情勢に対応するための分析力、判断力、行動力を養う。
 ・農林業生産及び農山村社会におけるリーダーとして必要な指導力、企画力、調整力を養う。

●重点目標
 ①意欲ある学生の確保
 ②教育内容の充実、強化と実践力の養成
 ③進路指導の充実と進路意識の高揚

評価 A：達成した B：概ね達成した C：やや達成していない D：達成していない

評価項目	評価内容	方策又は評価指標	前回の評価結果	今年度の達成状況・実績	評価	次年度の課題と改善策	評価コメント（外部評価委員）
教育目的及び基本方針・重点目標	教育目的及び基本方針・重点目標の職員及び関係者への周知	教育目的、基本方針、重点目標が周知されており、それを意識した取り組みが行われているか。	オープンキャンパス・高校訪問、関係機関会議等で周知を徹底	<ul style="list-style-type: none"> 職員会議で協議、周知している。 オープンキャンパス、学校説明会等で、本校の目標を十分に説明している。 学生募集要項に専修学校ではないことを記載し、周知を図った。 	A	○常に重点目標を意識した取組を行う。	・発信者側だけの評価に止まっていないか。関係者側の反応、受け止め方についても意識する必要がある。
学校運営	適正で計画的な予算執行	適切な予算執行がされているか。	優先順位をつけて適正に執行	<ul style="list-style-type: none"> 限られた予算の中で、常に必要性、緊急性を考慮しながら執行に努めた。 令和2年4月からの定員増に向けた「農林大学校再編拡充事業」が措置され、9月補正予算により施設機械整備を実施中（「教育環境」欄で詳述）。 	A	○効率的な予算執行に努める。	<ul style="list-style-type: none"> 再編拡充は大変に喜ばしいこと。県内の農業高校に、紙ベース・HP等の有効活用を図って適切に情報提供をいただきたい。 令和2年度から定員が増えており、経費の増額が想定される。適正な予算確保に努めること。
	情報・課題の共有化	運営会議・スタッフ会議、専攻打ち合わせ等で情報の共有化が図られているか。	学生指導面での情報はできる限り早い段階で伝達	<ul style="list-style-type: none"> 毎週月曜日の職員朝礼や専攻間での情報共有化を徹底している。 各専攻毎の朝礼、専攻内打ち合わせで情報共有化を図っている。 	A	○引き続き情報共有を迅速に行う。	・情報共有は意見交換のみでは不十分。記録を残し、各自が保管することで徹底が図られる。
	個人情報の管理	個人情報等の管理が適切に行われているか。情報漏えいがないか。	学生相談室の活用徹底 学生個人情報を記した回覧の目隠し対応徹底	<ul style="list-style-type: none"> 学生のプライバシー保護のため、学生相談室の活用徹底。 学生の個人情報を記した回覧の目隠し対応を徹底。 	A	○引き続き個人情報の管理を徹底する。	・教育現場では、個人情報の入ったUSBの紛失事例が散見される。外部媒体の取扱には、特に注意すること。
	職員研修の充実、職員の資質向上（体系的な研修、校内研修）	国、県、農業大学校協議会等の主催研修への派遣は適切に行われているか。 校内で必要な研修会が開催されたか。	国研修、農大西日本ブロック研修、各種研修会への積極的参加	【研修派遣】 <ul style="list-style-type: none"> 農業者研修教育施設指導職員新任者研修（6/25～28 国） 中国・四国ブロック農林大学校教務・研修担当者会議（8/1～2 岡山県） 西日本ブロック農業大学校畜産研修会（8/1～2 山口県） 全国林業大学校連絡協議会（8/6～7 静岡県） 【校内研修】 コミュニケーションアップ講座（12/20）	B	○必要な職員研修については、要望を取り入れながら実施していく。	・予算的な制約もあるが、できるだけ多くの研修を受講できるようにする。
情報発信	ホームページ、フェイスブックその他の活用	農大生活、行事、入試情報等計画的に紹介するなど、積極的に農大のPRを行ったか。 各専攻毎にホームページ・フェイスブックの更新を月1回以上行ったか。	フェイスブック広告活用によるHPへのアクセス ホームページ更新 月3回程度 フェイスブック年間投稿 55回 農林大なんでもQ&A作成（HP掲載）	<ul style="list-style-type: none"> ホームページ「学生の声」継続掲載。 「農大の動き」を毎月発行し、ホームページへ掲載、県内高校、関係機関、法人協会へメール発信。 ホームページ更新月3回程度、フェイスブック投稿年間72回。 林業科では、独自にブログを活用し日々の授業や実習、各種行事の様子を情報発信。 農大祭で「お客様アンケート」を実施、次年度への参考とする。 農林大なんでもQ&A、学生の声等をHP掲載：農林大情報へのアクセス数：年間3,549件 	B	○情報発信を積極的に行う。 ○学生からの発信、来場者の声などをさらに取り入れる工夫をしていく。	<ul style="list-style-type: none"> SNSを最大限活用し情報発信を行ってほしい。 中高生にもどんどん見てもらい、農林業に関心をもってほしい。 ターゲットの第1番は高校生とするなど、情報発信のあり方を全面的に見直す時期にあると感じる。

評価項目	評価内容	方策又は評価指標	前回の評価結果	今年度の達成状況・実績	評価	次年度の課題と改善策	評価コメント（外部評価委員）
学生募集	情報提供、説明会、高校訪問、オープンキャンパス、報道機関の利用等	様々な手段を講じて農大の情報提供を行い関心を高めたか。 定員以上の応募者があったか。	前年オープンキャンパス4回実施、参加総数72名。 入学試験受験者増加（前年比119%）	<p>【オープンキャンパス】7/26、7/31、8/4、8/21の4回実施、参加総数66名（前年比92%）</p> <p>【県内高校訪問】第1回 7/1～9 49校（全校）、第2回 9/9～13 34校（オープンキャンパス後）、第3回 10/25～11/13 37校（一般前期試験前）、第4回 1/14～15 31校（一般後期試験前）</p> <p>【県外高校訪問】大阪府 9/13 府立農芸高校等2校、鳥取県 9/17～18 倉吉農業高校等10校、山口県 9/25～26 山口農業高校等10校、東京都 10/4 都立園芸高校等3校</p> <p>【高校進路ガイダンス】15回 【農業高校との連携会議】6回</p> <p>【県外就農相談会】しまねUターン相談会in東京等9回</p> <p>【農業科】花き専攻では高校2校で出張講義を行い、学校や学習内容の紹介とアレンジメント実習を行いPRした。</p> <p>【林業科】PR動画をケーブルテレビで放送するとともに、ホームページに掲載。併せて学生募集用のDVDを製作（林業労働力確保支援センター協力）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高校の先生を対象とした実習見学会を開催。併せて在校生保護者を対象とした参観日を実施。（参加者23名） ・林業科在校生の協力にのちと学生による高校訪問（近況報告・見学会案内・学生募集）新たに県内高等学校の体験実習を2校受け入れ 	A	<p>○オープンキャンパス実施回数は引き続き4回とする。</p> <p>○出前講座などによる入学生確保対策を強化する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・他県への学生募集の成果をしっかりと検証を行ってほしい。また、様々な学生募集の成果を次年度の取り組みに反映させていただきたい。 ・県外での相談会参加による学生募集を継続強化すること。 ・中学生向けのイベントや説明会があるとより将来につながると考える。
学習成果（指導）	学生の基礎学力の定着、授業改善、授業研究、授業を実施するにあたっての共通事項の実践	分かり易い授業が行われたか。 定期的な基礎学力テストが実施され、それに伴うプリント学習の充実が図られたか。	共通課題テスト（年3回）と補習実施 定期的な補習体制（個人別・領域別） 授業実施研修、試験問題	<p>【全体】入学前課題による、新入生の基礎学力把握。1・2年生全員に国語、数学の基礎学力確認テスト実施。長期休業時に共通課題を配布。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書活動（図書委員・当番が毎月大田市図書館より50冊を借り食堂へ配置） <p>【農業科】学年毎に曜日を決めて定期的な補習体制を実施(延べ22日、23時間)。就職試験対策（JA・公務員）で参考資料配付・面接指導。</p> <p>【林業科】農業科と同じ共通課題テストを実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・試験等で理解が不十分な点があると認められる場合、補習を行うなど学力の定着に努めた。 	A	<p>○引き続き学生の基礎学力向上に取り組む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力の底上げは必要だが、それ以上に重要なのは「学ぶこと」の喜びを感じることに。 ・基礎的な知識の習得は、全ての学習を成立させる上で必須。引き続き取り組みを強化すること。
	栽培から販売までの能力育成、学生の理解度・技術力・管理能力・経営能力の向上、実習の充実	専攻毎に学生に対し自己目標を設定させ定期的に評価できたか。 第三者（農家留学等）による学生の評価を有効に活用できたか。	各専攻毎の特色に合わせた実践教育をすすめている。 農機メンテナンス研修、卒業前の農機実践研修など実践的技術指導を実施	<p>【全体】農業科全員が「しまねスマート農業技術展（11/1）」に参加し、ICT利活用を体験。</p> <p>【有機】学生は実習において担当作物の栽培計画に従い、自ら作業内容を考え実践している。有機栽培で用いるぼかし肥や踏み込み堆肥の作成など有機栽培独特の技術も習得した。</p> <p>【野菜】1年生の6月以降に主な担当品目を決め、計画作成、栽培、出荷を行っている。この経験を活かし、卒論課題をに取り組む。ただし、学習内容が偏らないよう担当品目以外にも幅広く実習している。機械作業やハウス修繕等についても、できることは限られるが行っている。栽培前に、どのような作業や資機材の準備が必要か、自主的に考えられるよう、はたらきかけている。また、6月からJA買い取り方式によるイオン大田店への出荷を開始した。</p> <p>【花き】1・2年生をとおして同一品目を専門的に研究して卒論に取り組む他、生産プロジェクトを通して、多品目の花き生産を経験した。また、フラワーアレンジ、室内園芸装飾技能取得を行い、花き生産から利用まで学べるカリキュラム内容としている。</p>	A	<p>○県スマート農業研究会との連会を図り、スマホ、ICT利活用の方法を検討する。</p> <p>○就職先決定後は、それぞれの就職先で即戦力となれるような実践的教育を個別に実施する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT活用は農業でも必要になる。体験を通して利便性などの理解が深まると考えられる。 ・スマート農業においては、今後益々重要な学び体験の場が必要となってくる。その上で、農業機械の安心安全な使い方、情報活用能力の育成などの視点も踏まえた学習体験を実施してほしい。 ・有機・果樹専攻の学生さんには、市役所内で「販売実習」を行ってもらい非常に好評だった。次年度もお願いしたい。 ・農業は気象条件によって栽培や収穫が大きく左右される。臨機応変に対応できる技術を身につけてほしい。

評価項目	評価内容	方策又は評価指標	前回の評価結果	今年度の達成状況・実績	評価	次年度の課題と改善策	評価コメント（外部評価委員）
				<p>【果樹】就農後必要になる現場での実践技術の習得を重点に置き、ハウスや果樹棚等施設の修繕技術の習得を図った。また、今年度、果樹専攻として大田市ぶどう生産組合に加入し、令和2年産から共販出荷の技術習得を図り、就農後の経営に役立つ実習内容にする。</p> <p>【肉用牛】学生に肉用牛飼育管理の基礎技術を習得させるとともに、子牛の発育成績や肥育牛の枝肉成績を分析、評価させ、飼育管理体系の改善に向けた手法をチームワークとして実践。</p> <p>【林業】機械操作実習では、個々の技術のレベルアップのため、昼休み・放課後等を活用することにより、学生個々の操作時間を増やすよう努めた。</p>			
魅力ある教育活動	農家留学、地域農業実習等	学生の成長に資するものになっているか。農家留学・地域農林業実習を各専攻4回以上、学校全体で24回以上実施したか。	即戦力の学生が求められているため、短期、長期の体験実習など実践的な学習の強化を図っている。 校外学習：学校全体で40回以上実施	<p>【全体】短期農業経営者養成科及び自営就農コースのカリキュラム作成中。 ・農業科全体の校外学習は14回実施。地域農業実習を各専攻とも3回以上実施し、学校全体で40回以上実施。 ・2年生の約1ヶ月間の農家留学は9月を中心に実施。雇用就農希望先を中心に、先進的な技術を有する農家等を選定し、進路対策に結びつけている。</p> <p>【有機】専攻独自の課業である1年生の「地域有機農業体験実習」（6日間）では、有機農業を実践する農家体験を実施し、有機栽培の考え方や、有機栽培技術の基本を学んだ。また地域農業実習では、サテライト校（有機農業実践農家）などへ出向き現地事例を学習した（年3回）。</p> <p>【野菜】地域農業実習として、自営就農した卒業生ほ場や先進的な取り組みを行う企業において実施(2カ所)。</p> <p>【花き】地域農業実習では、農家見学、花き市場、卒業生の就業現場、農業公園も視察した。農業公園では花生産のバックヤードに案内があり参考となった。また、フラワー・イン・シマネへの参加や鳥取県立農林大学校との交流会を開催し、学習意欲向上に繋がった（4回実施）。</p> <p>【果樹】地域農業実習では、島根ぶどう初出荷式やぶどう・柿産地での園芸品目の導入を中心に4回実施。</p> <p>【肉用牛】地域農業実習として5回実施し、その中で近畿中国四国地域問題別研究会や家畜人工授精師研修会などに参加して全国レベルでの最前線の情勢や技術を学び、広い視野を育む取り組みとした。</p> <p>【林業】関係機関や森林組合等の協力を得て、現地視察等の実践的な教育を行った。また江の川下流域活性化センターの協力により、卒業生のいる事業体で意見交換を行った（5回）。</p>	A	<p>○自営就農に向け、総合的、複合的に学べるカリキュラムの検討と実施 ○校外学習により農林業技術・経営の視野を広げ、実践的な学習ができる環境を整えていく。</p>	<p>・自営就農希望の学生と雇用就農希望の学生とに区別して、それぞれベストな実習先を選定してほしい。</p> <p>・短期農業経営者養成科及び就農準備コースのカリキュラムの具体化を急ぐとともに、短期養成科の魅力（メリット）を早期に打ち出してほしい。</p>
	担い手育成研修、実践研修、教員研修、森林施業プランナー研修、林業エンジニア研修等	受講者の技術や能力の向上に資することができたか。担い手研修・実践研修受講者の就農率が8割を超えたか。	担い手研修募集パンフレットのリニューアル H30年度社会人研修生12名の就農率100% 農福連携研修（野菜・果樹指導員研修）を実施（参加者9名）	<p>【JAグループとの連携】新規就農者育成のための園芸ハウス（J1～3）設置</p> <p>【担い手育成研修】花き、果樹部門で各1名受講中。講義と実践指導で課題解決を図っている。研修生募集について、ケーブルTVでの放映依頼。</p> <p>【有機農業実践研修】研修生2名が修了。両名とも農業へ携わる予定。</p> <p>【野菜実践研修】研修生8名のうち、6名が修了。</p> <p>【教員研修】県内小中高、養護学校から38名の参加があり、農林業に関する体験の機会を提供した。</p> <p>【林業エンジニア研修】林業事業体の要望も踏まえ、既就業者を対象とした研修を実施（3コースに参加者19名）。</p> <p>【農福連携研修】福祉施設の指導員を対象とした研修会を実施した。参加者4名（野菜）</p>	A	<p>○農林大学校再編拡充に対応し、研修部門の見直しを図る。 ○教員研修を通じて、農林大の魅力を伝える工夫をする。 ○新規就農交流会などへも研修生の参加を促す。</p>	<p>・外部団体との連携は素晴らしい。関係機関との連携をより一層充実を図ること。</p> <p>・移住希望者、定年帰農、定年就農など就農希望者が増加傾向にある。各種研修を充実してほしい。</p> <p>・担い手研修は、短期農業経営者養成科への入学準備と捉え、随時入学を検討することはできないものか？</p>

評価項目	評価内容	方策又は評価指標	前回の評価結果	今年度の達成状況・実績	評価	次年度の課題と改善策	評価コメント（外部評価委員）
資格取得	難関資格試験の合格率向上、営農や就職に有利な資格取得の促進、資格取得特別講座等	学生は資格取得に意欲的か。 農業技術検定3級全員合格、2級50%以上合格することができたか。	学生の取得意向を確認し、各種資格を取るよう仕向けている。 H30年度：農業技術検定合格率：3級86%、2級25%、大特63%、けん引41%、フォークリフト44% フラワー装飾3級1名、色彩検定3級1名、室内装飾技能検定3級1名	【全体】 農業技術検定（3級：88、2級：19%）、大特67%、けん引31%、フォークリフト67%。 【有機・野菜、果樹】 希望進路において求められる各種資格取得を推進した。 【花き】 フラワー装飾技能検定3級2名、室内装飾技能検定3級1名合格。 【肉用牛】 就業に要する各種資格の取得を進め、特に、削蹄師養成講習会や家畜人工授精師養成講習会に向けた事前実習を重点的に行った。 【林業】 林業に必要な資格は取得できるようカリキュラムを組んでいる。資格取得に必要な知識や技術が不十分な学生に対しては、個別に補習し知識や技術の定着を図った。	B	○ステップアップできる資格取得については、入学当初から促していく。 ○雇用先や卒業生からの声を活用していく。 ○資格取得のための実習時間の確保を図る。	・在学中に就農に必要な資格が全て取得できるよう働きかけること。 ・大特については、短期農業経営者養成科、研修部門研修生も積極的に取得する方向へ誘導してほしい。 ・就業した後は、パソコンによる事務が必須の作業となる。スマホしか扱えないのでは困るので、パソコン操作の苦手な学生を対象にパソコン検定等を受けさせる必要もあるのではないかな。
就農就業支援 進路指導	学生の進路に対する意識の醸成、動機づけの早期化、面談、アンケート、就農ガイダンス、就職セミナー	1年次後半の進路目標決定がされたか。多数の求人情報の収集がされたか。関係機関への情報提供は十分されたか。自営・雇用を合わせた就農・就業率が50%を超えたか。	5年間の離農率10%（県平均25%） 林業関係10%。 H30就農・就業率60%	【全体】 6月の就農ガイダンスに42名（81%）の学生が参加。 ・就職セミナーを2回実施（5月、2月）。 ・1年次後半に進路目標が決定できるよう早めに面談を行っている。 ・R1就農・就業率68%。（農林業団体：4、関連産業：2、公共機関：2） 【各専攻】 1年次3月の三者面談を基に、学生との面談の機会を増やし、学生の希望する雇用就農・就業先での短期間のインターンシップや2年次9月の体験学習につなげている。 ・自営就農希望者へは、関係機関と連携し、施設の確保や就農計画樹立等に向け活動。 ・求人情報の提供は積極的に行っている。 ・林業科は就職先及び先進農林業者体験学習の学習先の参考とするため、1年次に林業労働力確保支援センターの主催する就職ガイダンスに参加（2月・1人が4社以上の情報収集）	A	○1年のうちから学生面談を複数回実施し、早い段階での進路検討を行う。 ○就農・就業へ結びつくようなインターンシップを早い段階から実施する。	・自営就農希望学生は、早い段階で希望地市町の農業担い手支援担当につないでほしい。 ・自営就農希望学生は、市町村の「就農パッケージ」に早い段階からのせる取り組みをしてほしい。 ・雇用希望学生は、県が取り組んでいる「雇用から自営への仕組み」を理解させて、就業させてほしい。
学生指導	寮の自主的運営、農大祭等	学生が寮の運営を自分のこととして考えられているか。農大祭に学生が自主的に関わることができたか。	寮の一斉清掃日を定めているが、不十分。自治会、農大祭などで自主的な運営がみられるようになった。	・「整理整頓は生活の基本」を掲げ、寮清掃（月曜日昼休み）、専攻清掃（金曜日夕方）を徹底している。 ・農大祭や農林大市場などのイベントで、積極的な運営が見られるようになった。	B	○入学当初からごみ分別指導徹底 ○「あいさつ、時間厳守、整理整頓等マナーの徹底」	・農大祭は多くの大田市民が楽しみにしている。学生が積極的に盛り上がるのがより魅力アップにつながる。 ・学業、バイトで多忙で健康に不安のある学生もいる。健康に対する意識啓発が必要。
	防災・事故・外部対応等に対する体制の構築及び周知徹底、健康で健全な学生生活	危機管理に対するマニュアルは周知されているか。学生自治会主体の防災訓練が実施されたか。心身が不安定な学生への適切な対処がなされたか。	学生の交通事故発生件数：H30年度8件 実習中の事故、ケガ：7件 ・ヒヤリ・ハットの調査、整理、分析、注意喚起の徹底（1～2月） 定期的に健康相談を実施している。	・「日々の確認事項」を作成し、専攻実習の前後に注意事項を確認、徹底(5月) ・入学当初の交通安全・防犯講習の実施（4月）。 ・交通事故発生件数：R1年度4件（学生1名死亡）。 ・実習（授業）中の事故・ケガ：3件。 ・長期休暇前の講習会等による注意喚起強化 ・毎週末のHRでの注意喚起 ・ヒヤリ・ハットの調査、整理、分析、注意喚起の徹底。 ・防火・避難訓練の実施（本校男子寮、女子寮、飯南寮：4月）。 ・避難訓練・消火訓練（消火器・消火栓）の実施（林業科11月・中山間Cの訓練への参加） ・女子学生対象の防犯・護身術講習会の実施（1月）。	B	○交通安全・防犯・健康維持への意識醸成を徹底する。 ○ヒヤリ・ハットの確認と分析、対策の徹底。 ○対応マニュアルの周知、徹底を図る。	・死亡事故があったとはいえ、交通事故、実習中の事故・ケガとも半減したことは評価できる。「事故ゼロ」に向け引き続き指導すること。 ・農機具による事故は大けがや死につながる事が多いので、引き続き注意喚起、講習等を強化する。 ・昨年の学生死亡事故をふまえ、交通安全の取り組みを強化すべき。

評価項目	評価内容	方策又は評価指標	前回の評価結果	今年度の達成状況・実績	評価	次年度の課題と改善策	評価コメント（外部評価委員）
地域交流	地元小中高との交流、地域活動への参加	地元の保幼小中高の受け入れができたか。地域へ出かけての活動や地域との交流ができたか。	体験受け入れ、花育、食育、地域の催し等、様々な場面で地域交流に取り組んでいる。	<p>【全体】県法人協会青年部（9月）、大田市農青連（1月）、県法人協会（1月）、県農林改良青年会議（1月）との交流。</p> <p>・農大祭（7月）、農林大市場(11月)など農大でのイベント実施。</p> <p>【2年生】大田ロータークラブとの交流による「石見銀山活動」の継続実施。</p> <p>【有機】出雲市で5～7月に開催された「まちなかマルシェ」への出荷、波根地区文化祭への参加など、有機農業への取り組みPRと地域交流を行った。</p> <p>【野菜】村田製作所、あすてらす((公財)しまね女性センター)におけるイベントや、地元の公民館活動、柳瀬地区、波根地区の文化祭へ参加。地元小学校1年生を対象に、野菜（5品目）の特徴と栽培管理に関する授業を実施(1h)。</p> <p>【花き】地元保育園児を対象とした花育、愛好会やまちづくりセンター成人学級を対象とした花活の実施。地元小学校1年生を対象に生活科で花栽培（5品目）と花壇管理の授業を実施。</p> <p>【果樹】シャインマスカット糖度上昇検討会を、果樹専攻卒業生、JA、普及部等と開催し、現地の重点課題を学習するとともに、卒業論文の内容についても意見交換を行った。また、今年度、果樹専攻卒業生や農業担い手研修生等で自営就農者会を発足（会員6名）し、新規就農者の技術・経営能力の向上、島根県オリジナル品種「神紅」の試験研究成果の学習や会員相互の交流を図ることができた。さらに、本年度、「美味しまね認証の上位認証（ゴールド）」を取得する見込みである。</p> <p>【肉用牛】地域農業者との連携で不作付水田の有効利用として2カ所、ならびに集落内の景観保全として1カ所、牛の放牧活用を実践した。また、牛舎施設は地域の保育園児の散歩コースとなっている。</p> <p>【林業】1年生が赤名湿地の保全活動に参加。1・2年生が地域の赤名祭りに参加。また、実習で搬出した間伐材を利用して、飯南高校の高校生有志と農林大学生の有志で、祠を製作予定（令和2年度）</p>	A	○食育や花育、木育、「美味しまね認証」等の視点を大切に、引き続き地域交流活動に積極的に参加する。	<p>・技術向上と経営能力の向上は持続的に行わなければならない。自営就農者会の発足で有益な情報交換を勧めてほしい。</p> <p>・自営就農者の会は、果樹だけでなく、野菜などでも設立してほしい。</p> <p>・自営就農者の会員には、就農相談会でのセミナー発表者となるよう農大からも働きかけてほしい。</p> <p>・卒業論文をホームページで公開し、もっと広くPRすればどうか。</p>
教育環境	圃場・施設・設備の充足度、機械・機器の充足度、維持管理、整理整頓、廃棄	農業機械、施設、機器の適切な管理運営が行われているか。実習棟、機械庫等は整理整頓がされているか。共有機械等の維持管理が適切に行われているか。農場以外の学校用地や施設の維持管理が適切に行われているか。	<p>・地震（4/9）被害の復旧：路面亀裂、寮入り口段差、壁、屋根など多数）</p> <p>・肉用牛専攻プレハブ女子更衣室設置</p> <p>・学生移送のためのレンタカー試行</p> <p>・営農用ポンプ更新（2台）</p> <p>・国道沿いへの学校名看板設置</p> <p>・街路樹、樹木伐採</p> <p>・コメ保冷庫新設</p> <p>・花き専攻調整室冷蔵庫更新</p>	<p>○「農林大学校再編拡充事業（9月補正予算）」による施設機械整備</p> <p>【農業科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・有機農業専攻パイプハウス2棟新設 ・野菜専攻鉄骨ハウス3棟解体・パイプハウス6棟新設 ・花き専攻ガラスハウス機能向上3棟（ICT複合環境制御システム対応） ・資格免許用農業機械整備（トラクター、バックホー） ・清友寮、友波寮簡易改修 <p>【林業科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校舎整備（教室・職員室・更衣室等改修） ・高性能林業機械整備（スイングヤーダ、フォワーダ、伐倒訓練用機械） ・教育用備品整備（チェンソー、刈払機） ・車両整備（10人乗り、普通車、1.5tトラック） <p>○その他の教育環境整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境モニタリングシステム整備 ・肉用牛専攻女子トイレ改修 	A	○予算等に合わせ、計画的な施設管理に努める。 ○施設の老朽化が見られ、必要に応じて施設管理者（西部県民センター）と協議しつつ機能維持に努めていく。	<p>・農林業機械の計画的更新・整備を進めてほしい。</p> <p>・林業科へは農業高校女子生徒が入学するようになった。寮などの環境整備の充実を図り、学生募集に際しても安心・安全な環境であると認められるよう適切な対応を願いたい。</p> <p>・評価基準が曖昧で抽象的。評価を客観的にするためできるだけ数値化した方がよい。</p>